

T.M.P. NEWS

T.M.P.

VOL.55 2020.4

うららかな春の日差しが心地よいこのごろ、皆様におかれましては益々御清祥の事とお慶び申し上げます。また平素より格別のお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。

私事で甚だ恐縮ですが、お陰様で、我が家二女も無事に今年高校を卒業する事ができました。御多分に漏れず、卒業式の開催が危ぶまれておりましたが、親不在による卒業生だけの式となりました。それでも子供たちにとっては久々の再会となり、互いに記念写真を撮り合い、楽しい時間を送る事ができたようです。

私はと言いますと、この所、ジムでのワークアウトを自粛して、ストレスが溜まった状態にあります。当地愛知県は当初北海道に次いで感染者数が多い地域となり、スポーツクラブがクラスターの発信源になったこともあり、私の所属するジムも以来、閑散とした状況が続いております。

一方で、これを契機として、当社のテレワーク化も徐々に進み、自宅と会社、各地域と本社を結んでの会議なども頻繁にネットワークを結んで行うようになりました。この災いを契機に人々の価値観、働き方が大きく変わっていくような気配を感じております。

昨年末コロナウイルスが武漢で広がっている旨のニュースを聞いてから、WHOがパンデミックを宣言したのが、そのわずか3か月後です。地球が如何に小さくなっているかを実感いたします。コロナ感染番組で感染治療の専門家の方が、あなたの隣にはアフリカ大陸が広がっている、といった旨のお話をされたこともうなづけます。

さて、恐ろしいウイルスも、ワクチンができればただの風邪になるとの話もお聞きします。その日が一日も早く来る事を夢見て、私の行動でアフリカの誰かが傷つかないよう、今は、近所の公園をランニングする事で、健康維持とストレス解消に努めることにしております。

皆様におかれましては、時節柄、十分ご自愛頂きますよう、心からお祈り申し上げます。

株式会社 東海メディカルプロダクツ

代表取締役社長 筒井康弘



名古屋城の夜桜（撮影：筒井康弘）

名古屋商工会議所メディカルデバイス産業振興協議会 幹事会



2020年最初のメディカル・デバイス産業振興協議会「幹事会」を名古屋大学のアジア法交流会館内にある茶室「白蓮庵」で行いました。当日は、1月とは思えないほど暖かく、茶室にもやわらかい日差しが差しこみ、お茶会日和となりました。

この茶室は2015年に名古屋大学・法政国際教育協力研究センターの新しい本拠地として「名古屋大学アジア法交流館」が竣工された際に、名古屋大学の客員教授をしている筒井会長と筒井副会長夫妻から寄贈させていただいたもので、生前茶道をしていた次女・佳美さんの戒名「白蓮院」にちなんで「白蓮庵」と命名されました。



和の心娘の分まで
一九六八年に生まれた佳美さんは、先天性の心臓の難病があり、九歳で専門医から手術は不可能」と告げられた。筒井さんは佳美さんを救おうと人工心臓の開発を決意し、八年に東海メディカルを設立。動物実験

①生前の筒井佳美さん ②名古屋大に茶室整備費用を寄附した東海メディカルプロダクツの筒井宣政会長と妻の陽子さん=16日、名古屋市千種区で

な美用化の壁が厚く製品化できなかったものの、八九年、生前、佳美さんは名古屋市東区の自宅近くで茶道を習っていた。病のために屋外での運動ができない中、中学生の時に「何か趣味」と、友人と始めた。九年に佳美さんが二十三歳で死んでしまった後、筒井さんは「娘の死を悼み、快話を広めたい」と、茶道を始めた。筒井さんは名古屋市千種区に「(二五年度中に完成する)融合・連携型国際人材育成拠点施設(新C-HLE)

「東海メディカル」会長 名大に茶室を寄贈

佳美の名は、花のようにならしかったから、と付けられた白蓮院で始まる佳美さんの人生が日本文化に触れる場となるでしょう」と曰く締めた。

井さんは「娘も天国で喜んでいた」と喜んでいた。筒井さんは娘の亡き夫に渡した。浜口道哉会長は「娘も天国で喜んでいた」と喜んでいた。

佳美の名は、花のようにならしかったから、と付けられた白蓮院で始まる佳美さんの人生が日本文化に触れる場となるでしょう」と曰く締めた。

2015年3月16日 中日新聞掲載記事

お茶をいただくというのは、ゆっくりと飲む時間があるという「時間の余裕」、お茶に少しお金をかけることができる「お金の余裕」、お茶を楽しむことができる心身を持っている「健康の余裕」、この3つの少しの余裕があつてこそ楽しめると言われています。

また、茶の心としてよく言われますのが「一期一会」の精神で「たとえ何度も顔を合わせる間柄であっても、その時が最後だと思って誠心誠意を尽くす」という意味であり、人に対してでもあります。また、茶碗も一つとして同じものはありませんので茶碗との出逢いもまた茶の楽しみでもあります。

メディカルディバイス産業振興協議会の幹事の方々には、初めてのお茶会という方もいらっしゃったかと存じますが、形式ばったものではなく、和やかにお茶を楽しむことを体験していただけた機会になったのであれば幸いです。

お茶会後はセミナールームで幹事会を行い、議論を交わしました。一年の始まりの会として有意義な会がありました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

名古屋商工会議所 兵庫・神戸地区医療機器産業視察会



2月20日、筒井会長が幹事長を務めている名古屋商工会議所メディカルデバイス産業振興協議会が主催した視察事業で兵庫県を訪問しました。

最初に血液成分検査や感染検査用の機器・試薬を国内外に製造販売しているシステムズ株式会社の基幹工場である「アイ・スクエア」を訪問しました。最上階にある生産フロアは多品種を生産ラインを維持するために柱をほとんど撤廃してレイアウト変更し易くしていました。あらゆる面で効率化を図った工場設計、ライン設計となっており、労働環境としても清潔で洗練された印象でした。

次に2018年に新設された統合型医療機器研究開発・創出拠点(MeDIP)と神戸医療機器開発センター(MEDDEC)を視察しました。MeDIPは様々な機器が取りそろった公的ラボ施設で、神戸大学との連携施設です。MEDDECは医療機器の新規事業開発を総合的に支援する公的施設で、インキュベーションマネージャーと呼ばれる専門スタッフが常駐して細やかな支援を行っており、医療機器に新規参入したい方々への支援体制も整っていました。

LINC (Leipzig Interventional Course) 2020



1月28日～31日、ドイツ・ライプチヒで開催されたLINC (Leipzig Interventional Course)に出展いたしました。主催者発表によると、世界の各国から4,946名の参加者を集めたとのこと。今年は期間中、例年に比べ、気候も良く暖かい日々ということもあってか、昨年よりも活気のある会場の雰囲気を感じました。

欧州市場において当社の下肢用マイクロカテーテルProminent®(海外での販売名Carnelian™ Support)の販売代理店をBiotronikとし、本格的な市場投入から11か月が経過しました。今回は現地のドクターから“Carnelian™ Support”を目当てに直接当社ブースへの来訪がありましたが、昨年まではなかっことで、Biotronikの営業活動の浸透を実感できました。

学会期間中、ブース出展とは別に、日本の014”,018”ガイドワイヤーとサポートカテーテルを使用した手技の啓蒙と当社製品の販促を目的とした計3コマ(各90分)のワークショップを開催しました。講師となっていたのは札幌時計台記念病院・浦澤一史先生と東京ベイ浦安市川医療センター・仲間達也先生の2名の先生で、日本の先生方の手技方針、使用デバイス、症例報告のプレゼンをしていただきました。

使用デバイスではCarnelian™ Supportを中心に、同製品の有用性と同時に、どのような症例に、どの種類を使うべきかという観点からお話をいただきましたが、欧州ドクターからも、欧州ご経験等をプレゼンいただき、良い意見交換の場となりました。特に、Biotronik営業員からは積極的に質問が投げかけられ、非常に熱心な態度で聞き入っていたことが印象的で、仲間先生も彼らの真剣さに非常に好印象を持たれており、次回以降も、同様のワークショップがあれば、ご協力いただける旨仰っていただきました。

Biotronikは当社サポートカテーテルを非常に熱心に販売しようと真剣に取り組み、ヒトと費用をかけていることがよく分かります。引き続き、パートナーとして協業を進めていき、日本の手技とともに、当社製品のより一層の市場浸透を図るべく活動を行ってまいります。(西川 記)

コラム

名古屋大学創立80周年となる2019年、人生100年時代を見据え、次世代の経営を担う人材を対象として、いくつになっても学び、新しいことにチャレンジできる社会の実現に貢献する『名古屋大学エグゼクティブ・トレーニング・プログラム(NEXTプログラム)』が開講されました。

名古屋大学では客員教授として、教壇に立つ側としてもお世話になっておりましたが、松尾総長から是非受講をとの打診を受け、その第1期生として受講し、修了証をいただきました。

内容としましては、全11回にわたり最先端の叡知を集結したものであり、この講義でしか出会えないトピックスばかりで、非常に新鮮な気持ちで聴講致しました。

○「コンピューターが小説を書く日」

(工学研究科教授 佐藤理史氏)

○「はやぶさ2による小惑星リュウグウ探訪記」

(環境学研究科教授 渡邊誠一郎氏)

○「必ずくる震災で日本を終わらせないために」

(減災連携研究センター長・教授 福和伸夫氏)

○「モビリティ革命最前線」

(未来社会創造機構教授 武田一哉氏)

○「死ぬことのどこが悪いのか」

(教養教育院長、情報学研究科教授 戸田山和久氏)

上記の講義は、非常に興味深いものでしたが、特に興味を覚えましたのは次の2講義ですのでご紹介します。



受講風景



名古屋大学 松尾総長より修了証

◎「ゼロエミッション社会構築に向けて」
(工学研究科教授、ノーベル物理学賞受賞者 天野浩氏)

ゼロエミッションとは、産業により排出される様々な廃棄物・副産物について、他の産業の資源などとして再活用することにより社会全体として廃棄物をゼロにしようとする考え方のこと、この講義はLEDを使っての再生エネルギーの話であり、これからの地球環境や省エネルギー問題にダイレクトにつながる研究で、私としても考えていかなければならぬ問題もあり、非常に参考になった講義あります。

◎「宇宙線イメージングによるクフ王ピラミッドの新空間の発見」
(理学研究科特任助教 森島邦博氏)

「線」を利用した技術で我々に身近なものと言えば、レントゲンの「X線」でしょうか。この講義は、宇宙から降り注ぐ「線」ミューオンとニュートリノに注目した講義であり、特にニュートリノは非常に観測が難しかったのに比べ、負の電荷をもつミューオンは直進性と透過性に優れていたため、様々な技術に応用が期待されたとのことでした。例えば、今まで知り得なかったクフ王のピラミッド内部構造を明らかにしたり、火山内部の地質構造の可視化ができることにより、技術が進めば、火山爆発など災害の予知などができると思うと大変興味深いものがありました。

講義はもちろんのこと、共に受講した方々とも業種を越えて交流する機会を作ることができ、有意義な時間となりましたし、いくつになっても学ぶことは楽しく、その姿勢を忘れないようにしたいと改めて感じました。

このような機会をいただきまして、誠にありがとうございました。

筒井宣政



松尾総長、講義いただいた先生方と受講生との記念写真

Japan-US HBD East 2019 Think Tank Meeting



2019年12月11日、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、日本医療機器産業連合会の主催で「Japan-US HBD East 2019 Think Tank Meeting」が全社協・灘尾ホールにて開催されました。

HBD(Harmonization By Doing)は医療機器の日米同時開発の促進を目的とした日米産官学による活動で、その中で現在進行中の具体的な医療機器開発事例に基づき、日米同期開発における課題を抽出し、その解決策を見出すプロジェクトを行っております。そのプロジェクトの中の1つに、小児医療機器を代表とする希少疾病に対する医療機器の開発促進があります。小児を対象にした医療機器の開発はそのマーケットが大人に比べて小さいが故に、参入メーカーが少なく、治療現場では十分な医療機器の選択肢がそろっているとはいえません。

当日は【HBD for Children: Progress and Challenges】と題して、産官学各分野より課題解決への取り組みが紹介されました。当社は小児弁拡張用バルーンカテーテルを開発し、日本並びに東南アジアを中心とする海外にも輸出を行っているため、その経験を報告するとともに小児医療機器開発の課題と行政に対する要望を報告いたしました。

発表後は発表者がそのままパネラーとなってパネルディスカッションも開催され、日米双方の専門家が忌憚ない意見の交換がなされました。こういった活動が促進される事で、日米の承認プロセスの調和が図られ、速やかに両国に対して小児の医療機器が供給できるようになれば、参入メーカーも増え、現状の課題を解決できるものと感じました。(筒井康弘 記)



2020年度 新入社員入社式

4月1日、本社にて2020年度新入社員入社式を執り行いました。新規学卒者8名の門出を役員・社員一同で祝い、また前年度の中途入社社員5名の紹介を改めて実施いたしました。

会長からは「日々たゆまぬ努力・研鑽を重ねて着実に成長し、当社になくてはならない存在になってください。」との激励の言葉があり、また、社長からは「昨日できなかつたことが今日できる、今日できなかつたことが明日できるようになるよう成長してください。皆さんの成長自体が皆さんの糧になります。ぜひ我々の会社を通して成長してください。」とエールが送られました。

当社の創業の精神・企業理念に共感し、医療に貢献したいという志を抱いて入社を決めた新規学卒者8名と中途入社社員5名。新規学卒者は4月10日まで総務課での研修を受けた後、各部署での研修が始まります。これからの活躍を期待しています。(東 記)



 株式会社
東海メディカルプロダクツ

T.M.P.NEWS VOL.55 2020年4月1日発行 編集発行人:筒井 康弘

〒486-0808 愛知県春日井市田楽町字更屋敷1485番地

【TEL】 0568-81-7954 【FAX】 81-7785

【E-mail】 info@tokaimedpro.co.jp 【HP】 http://www.tokaimedpro.co.jp